

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立向洋中学校】

1 実践テーマ	I ・ III
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立向洋中学校 第1学年(59名)・第3学年(59名) 計118名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① ○教科名(総合的な学習の時間) ② 行事名() ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	・視覚に障害をもった方たちの生活の苦労や工夫を知り、ブラインドサッカーの体験を通じて、さまざまな障害をもった方たちと共生する社会について考えるきっかけとする。 ・誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	「ブラインドサッカー体験」 日 時 令和元年11月30日(土) 8:45～11:35 場 所 北九州市立向洋中学校体育館 参加者 第1学年59名、第3学年59名 計118名 活 動 ○準備体操 ・ブラインド体操 <div data-bbox="507 1538 821 1774" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="893 1538 1209 1774" data-label="Image"> </div> ・ブラインドウォーク <div data-bbox="507 1809 821 2045" data-label="Image"> </div>

	<p>○デモンストレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニング  <ul style="list-style-type: none"> ・1対1パス ・ドリブルシュート   <p>○ボールメニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブル ・コーン当て   <p>○講話・DVD視聴・質疑</p>  
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害のある選手との交流を通して、身近なところで出会う障害のある方々との関わり方について、様々な感じ方や考え方をもち時間となった。そして、ボランティア・マインドの育成につながっていくことができた。 ・実際に体験することで、日常生活での不自由さなどについて共感しやすくなった。また、バリアフリーやユニバーサルデザインの大切さにも気付き、偏見や差別等の人権尊重の面でも多くのことを感じ取ることができた。 ・視覚障害をもたれた講師の経験や体験を、具体的に見聞きする

	<p>ことを通して、普段何気なく過ごしている生活の中に、さまざまな障壁となるものが多く存在することを理解することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーションを密に図りながらチームプレーをする」姿を見ることで、視覚に頼れないことから、声を出すことや聞くこと、相手を思いやる気持ちなど、コミュニケーションの重要性に気付かせることができた。 ・「ブラインドサッカー」というパラリンピック種目を間近で見ること、東京2020オリンピック・パラリンピック大会への関心をより一層高めることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、接する機会がほとんどないブラインドサッカーを体験するので、専用のゴールやボール、全ての生徒にアイマスクを準備した。 ・ブラインドサッカー体験では、怪我防止等の安全面での配慮が必要であった。職員の配置や体育館の場の設定など、講師との綿密な事前打合せが必要である。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・アイマスクは感染症予防のために、全生徒一つずつ準備する必要がある。中規模以上の学校では予算を考慮する必要がある。 ・体育館で実施するため、けが防止のためにも人数の制限が必要である。学級数の多い学校では複数コマに分割し実施する必要がある。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、東京オリンピックまでに、障害者スポーツを通じて、パラリンピック競技について知る活動をきっかけとし、障害者への理解を深める学習や体力向上の取組としてクラスマッチでパラリンピック種目を実施する予定である。 ・今後、パラリンピックについての関心・意欲を高めるとともに、一層理解を深めていきたい。そして、東京2020大会への関わり方について考える契機としていきたいと考える。